

■フランス : Cordemais 石炭火力発電所、制限付で 2024 年まで運転延長の可能性

フランスのヴァルゴン環境連帯移行大臣付副大臣は 2020 年 1 月 13 日、ロアール川河口地域にある EDF 所有の Cordemais 石炭火力発電所（発電設備容量 120 万 kW）が運転時間を短縮した上で 2024 年まで、場合によっては 2026 年まで運転を続けると発言した。同国内の他の石炭火力発電所 3 カ所は脱石炭目標通り 2022 年に廃止される予定だが、同発電所は 2022～2024 年の供給力確保の観点から現在の約 10%程度の運転が必要とのこと。同副大臣によると、2022～2024 年にかけては現在の年間運転時間制限を 4,500 時間から 200～500 時間に短縮して運転し、2025 年以降の運転については現在建設中の Flamanville 原子力発電所 3 号機および Landivisiau ガス火力発電所の運開時期次第だが、最長でも 2026 年までとしている。なお、フランスの脱石炭については、「エネルギーと気候に関する法律」において発電所からの GHG 年間排出量の上限を定めることで実現が図られており、脱石炭の目標年である 2022 年以降も Cordemais 発電所の運転は続くものの、年間運転時間制限の短縮および同発電所で進められている固形バイオマス混焼による GHG 排出削減プロジェクトの成果により、GHG 排出量は同法で定められた範囲内に収められるとのこと。